



北米ホーリネス教団
オレンジ郡
キリスト教会
「週報」

2014年の努力目標

1. 朝の15分の祈りを大切に。
2. 1日2章の聖書日課に励む
3. 日ごとの写教に励む
4. 定期の祈り会に参加
4. 聖書研究・家庭集会への参加
5. 礼拝欠席の時は牧師に連絡を。

◎集会案内◎

日曜 礼拝 : 9:30~10:45am
 コーヒー : 日曜日 10:45~11:15am
 聖書の学び : 日曜日 11:15~12pm
 みふみ会 : 水曜日 10am
 定例祈祷会 : 水曜日 7:30pm
 早天祈祷会 : 土曜日 7am
 家庭集会 : 各地区に2箇所
 牧 師 : 杉村 幸 (日本語部)
 : 益田デーロ (英語部)
 電 話 : (714) 827-6244 (教会)
 : (714) 527-1456 (牧師館)
 E-Mail : sugimura1950@gmail.com
 教会ホームページ : www.occc.org
 教会所在地 : 4872 Bishop St.
 Cypress, CA 90630

石 叫

◎石叫■

「田内千鶴子」

「クリスチャン・グローバル・ネットワーク」発行(二〇一三年四月)の特集に、『三千人のオモニ(母)・田内千鶴子』の記事が載った。韓国孤児の母として生涯を全うした彼女の生誕百周年記念ドキュメンタリーだ。日韓の架け橋となった働きについては広く日本人に知られてはいるが、改めてご紹介しよう。

日本統治下にあった一九三八年、韓国・朝鮮総督府官吏の娘・田内千鶴子は、周囲の反対を押し切って韓国人伝道師、ユン・チホと結婚した。彼は当時、木浦の町で伝道しながら、港に捨てられている孤児を見つけては、自ら建てた掘っ立て小屋である「共生園」に連れ帰り、共に生活をしていった。町の人たちは彼を「乞食大将」と呼んでいた。チホが食料を集め、千鶴子が子供の面倒を見る生活が続いたが、日本が敗戦すると、反日気運は一気に高まり、危険を感じたチホは、いったん千鶴子を故郷の高知に帰したのだったが、園が心配だった千鶴子は、密航して木浦に戻ってきた。その後、民族を分断する朝鮮戦争が起ると、チホと千鶴子は反動分子として人民裁判にかけられてしまう。しかし、それを阻止したのは、かつて日本人の千鶴子に敵対心を燃やしていた木浦の人たちであった。いつの間にか彼らの間に信頼と愛が生まれていたのであった。

ある日、チホは朝鮮戦争で激増した孤児たちの食料確保のため光州に向いたのだが、そのまま消息が絶えてしまった。帰らぬ夫を待ち続ける中、半日感情はますます高まり、代理園長となった千鶴子の共生園は食料供給もストップされたが、どんな状況下でも子供たちに対する愛は変わらせず、自らユン・ハクチャという韓国名に改め、韓服を身に付け、韓国語を使い、夫の残した園と子供たちを必死に守り続けたのだった。時間と共に園の働きは社会的にも評価され、一九六三年には「大韓民国文化勲章国民賞」が贈られた。だが、一九六八年十月三十一日、五十六回目の誕生日を迎えた朝、千鶴子は逝去した。十一月二日、木浦は開港以来、初めての市民葬で彼女を送り、駅前広場には3万人の参列者が駆けつけたのだった。当時の新聞に、「この日、木浦は泣いた」とある。

周りがどのような状況でも、千鶴子の孤児に対する愛は変わらなかった。その愛が、様々な困難を乗り越える力となったのである。十字架に死んでゆく直前の主イエスは、「わたしはあなたを捨てて孤児とはしない」(ヨハネ十四・18)と宣言したが、それは死をも乗り越えるほどの、ほとぼり出る神の愛から出たものだった。他者への真実な愛のみが人々の心を衝き動かすのである。

「オレンジ郡キリスト教会の歩み」

オレンジ郡キリスト教会は1977年に発足し、東洋宣教会・北米ホーリネス教団に所属するプロテスタント教会の一つです。北米ホーリネス教団は1921年に創立され、現在は日英両語合わせますと2000名を越える会員になります。

私たちの教会は18世紀に、英国で始まったジョンウエスレーによるメソジスト教会の流れを汲みます。そして他のプロテスタント教会同様、3世紀以来告白され続けてきた使徒信条を、私達の信仰告白と致します。

